

# 太陽光発電 安定供給へ

## 宮古島 6月から実証事業

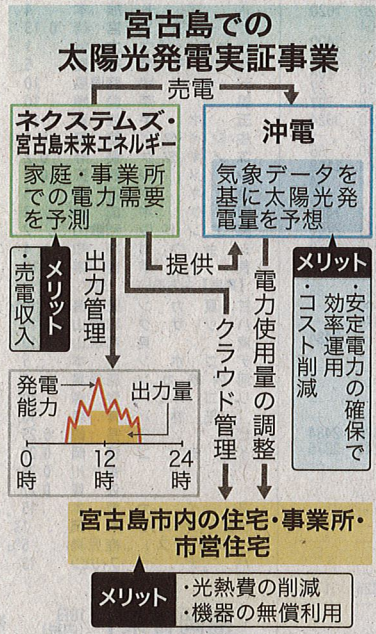
### 家庭用蓄電池など無償設置

再生可能エネルギーの普及と事業を手掛けるネクストシステムズ(宜野湾市、比嘉直人代表)と沖縄電力(浦添市、本永浩之社長)は6月1日から、宮古島市で太陽光発電を安定供給する実証事業を始める。太陽光発電は、天候の変化で発電量が大きく変動するため、電圧や周波数が安定しない課題がある。実証事業では出力量を抑えることで、天候にかかわらず発電量が安定するよう管理。家庭や事業者側の需要量も調整し、沖縄側の発電効率化につなげる。

(政経部・仲田佳史)

### ネクストシステムズと沖縄

発電量の安定は太陽光発電の普及に弾みをつけることになり、ネクストシステムズは他地域へのモデルケースとする方針。「宮古島未来エネルギー(M



MEC)」(宮古島市)が事業に協力する家庭や事業所に、太陽光発電システムやエコキユート、家庭用蓄電池などを無償で設置する。天候が崩れても発電量が極力変化しないよう出力制限を掛けて安定量を確保。MECはまとまった電力を沖縄に売電して収入を得る。

沖縄は重油で離島の電力をまかなっており、安価な電力を安定的に調達することでコスト削減につなげる。

実証実験では電力需要の負荷平準化にも取り組む。電気は昼や夜、明け方で使用量にばらつきが大きい。そのため、電力消費が低い明け方はエコキユートの稼働や蓄電池の充電に充てて電力需要を底上げ。消費が高い昼や夜は蓄電池の電力を使うことで、需要の伸びを抑える。

ネクストシステムズは事業に協力する家庭や事業所の電力使用量をシステム管理しており、

沖縄側に情報提供することで発電の効率化につなげる。実証期間は2020年度までで、18年度は市営住宅40棟に設置した1・2メガワットの太陽光発電で検証を始める。徐々に設置数を広げ、最終的に21メガワットを沖縄側に接続する計画だ。

比嘉社長は「発電量が不安定だとして、これまで接続に制限が掛かっていた太陽光が安定的に供給できるようになれば、他地域にも広がっていく。宮古島で成功事例をつくりたい」と意気込んだ。